

【PIECE アマチュア大会 公式ルール】

第1条 試合クラスについて

【ムエタイルール・首相撲ヒザ有り&キャッチからの攻撃有り・回転技無し】

【キックボクシングルール・回転技有り・首相撲ヒザ無し&キャッチ無し】

■ビギナークラス 1分×1R (延長なし) [パンチ無し・首相撲無し・回転技無し]

■初級クラス 1分×1R (延長なし)

■中級クラス 1分×2R (延長なし)

■上級クラス 1分30秒×2R (延長なし)

■トーナメント 1分30秒×2R (延長なし*)

*ビギナークラス以外の全クラス、インターバルは30秒とする。

*トーナメント決勝のみ、延長1R マスト判定で行われることとする。

第2条 階級について

■一般男子ワンマッチ：-54kg -58kg -62kg -67kg -73kg -80kg +80kg

■一般女子ワンマッチ：-45kg -50kg -55kg +55kg

■Jr.ワンマッチ(小・中学生)：-22kg -25kg -28kg -31kg -34kg -37kg -40kg -45kg
-50kg +50kg

第3条 防具について

■各個人が用意着用するもの：ファールカップ(男子)、アブスメントガード(女子)、マウスピース、バンテージ、ヒザあて、レガース、ヘッドギア

■主催者が用意するもの：12・16oz グローブ

※1 ヘッドギアは「ビギナー」・「初級」クラスのみ面付きのものも可能とし、「上級」クラスのヘッドギア着用は任意とする。

※2 レガースは綿製・ビニール製のキックボクシング用のものとする。

■-50kg未満の試合は12ozグローブを、+50kg以上の試合は16ozグローブを着用して試合を行う。

第4条 コスチュームについて

■トランクスはポケット・ファスナー等の金属やプラスチックの使用が無いものとする。

■男子・女子・ジュニア共に、Tシャツ・ラッシュガードの着用を可能と得するが、裾をキックパンツに必ず入れること。

■刺青・タトゥを露出してのウォーミングアップや試合は控え、Tシャツやアームウォーマー等を着用すること。

■指輪やネックレス・ピアス等の貴金属類の着用は不可。

■ケガ防止の為、手・足の爪は短く切っておくこと。

第5条 計量について

■事前に申請した階級の体重をオーバーした選手は失格とする。但し、計量後から第一試合の開始30分前までに試合体重まで落とし計量をクリアした場合、試合を行うことができる。

※計量をクリアできなかった場合、相手側の了承を得ることが出来た場合にのみ、減点及びグローブハンデでの試合を認める。

第6条 セCONDについて

- セCONDの人数は3名まで、インターバル中にリングイン出来るのは1名までとする。
- 試合中、リングに物を置いたり手を触れたりしてはならない。(インターバルを除く)
- 試合中、レフェリーの許可なしに選手に触れたり、立ち上がったりにしてはならない。(インターバルを除く)
- 試合の進行を妨げる行為やレフェリー、相手選手に対する罵声・暴言・中傷をしてはならない。

第7条 勝敗について

- 試合の勝敗は、赤と青の旗判定で行う。
- 採点基準は、①ダウン→②ダメージ→③クリーンヒットの順に判断し、手数が多い軽い攻撃よりも相手にダメージを与えるような、インパクトの強い攻撃を優先的に評価する。
- 有効打による負傷、スタミナ切れもダメージと見なし、相手に対し背を向けるなどの行為はダウンと判断する。
- レフェリーは試合中の選手の状態を把握し、試合の続行に支障があると考えられる場合は、必要な措置をとらなければならない。
- ダウンカウントは必ず5カウントまで数えるため、5カウントまでにファイティングポーズをとること。選手がファイティングポーズをとれず5カウントを数え終わった時点でKO負けとなる。ラウンド内で2度ダウンした場合はTKO負けとなる。
- リング下に落ちた場合、20カウント以内に自力でリングに戻れない選手はTKO負けとなる。
- 偶然のアクシデントによりダメージが酷く、試合の続行が不可能な場合は、1R中はノーコンテスト。2R中はそれまでの判定で勝敗を決めることとする。
- 全ラウンドを通しレフェリーのダウンカウントが優先される。レフェリーのカウント終了後にゴングが鳴る。(ラウンドの残り時間が1秒でも、レフェリーのカウント中にファイティングポーズを取れない場合、KO負けとなる。)

第8条 反則行為について

- 禁止事項は、『肘撃ち、顔面膝蹴り、頭突き、噛みつき、目突き、金的、関節技、後頭部・背中への攻撃、首相撲時の腰を入れての投げ・サバ折・足を絡ませての倒し、ブレイク後・倒れた後・ダウン後の攻撃、自ら倒れ込む行為、ロープを掴む行為、リング上から相手を落とす・自ら降りる行為』
- ※反則行為の顔面膝蹴り等の攻撃でも、自ら頭を下げたり、自ら倒れこんだりして貰った攻撃は有効打と見なす。

第9条 減点・失格について

- 上記の反則行為をした場合、口頭注意→イエローカードによる警告→レッドカードによる減点の順にレフェリーから宣告され、2点目の減点があった時点で失格となる。(セCONDへの減点も合計する。)
- ※ 悪質な場合、1度の反則行為で即反則負けとなる。
 - ※ 故意でないローブロー・バッティングも注意・減点の対象となる。
 - ※ 消極的な試合やセCONDがスポーツマンシップに反するような応援(著しく選手を中傷するような応援やヤジ等)をした場合も注意・減点の対象となる。
 - ※セCONDの試合を妨げる行為や罵声・暴言・中傷が過剰な場合、レフェリーはセCONDに対し、減点または退場を命じることができる。